

日本人のころ (下)

” 秋の日は、釣瓶落とし “、日に日に日没が早く正に長月 (9 月)、暦通り。” 斗酒辞せず “の季節到来に心躍ります。

“一角有るや人心、あまり軽ろきは転びやすし “目に見えない ” 心 “ は難しい。

題して、「日本人のころ」安岡先生からの講義は二回目になります。

それこそ、心して拝聴したいものです。

共に学んで共に語り共に歩めること本望です。

皆様のお越しをお待ちしています。

記

1. 日 時 : 平成 28 年 9 月 24 日 (土)
PM 16 時 00 分 ~18 時 00 分
2. 場 所 : 千葉生涯学習センター ☎043-207-5811
※ 今回は 地下の「他目的室」です。
<交通案内>JR 千葉駅東口から 徒歩 8 分 駐車場有り
3. 会 費 : 1000 円
4. 演 題 : 日本人の心 (下) 「安岡正篤」講和選集より

(1) 東西詩情のへだたり

- ・古池や 蛙 (かわず) とびこむ 水の音 (松尾芭蕉)
- ・起きて見つ 寝て見つ蚊帳 (かや) の 広さかな (加賀千代女)
- ・朝顔に 釣瓶 (つるべ) とられて 貰い水 (加賀千代女)

(2) 馬を観ず天機を観る

「馬よりももっと大事なもの、即ち天機を観る」達人は、形骸や枝葉末節にとらわれずに、真生命を把握する。そこに東洋文化の狙いがある。

(3) 東洋の没我的精神

西洋文化が individualism (個人主義) の上に立っている。東洋文化は、自分というささやかなものから、少しでもこれを摂取する根源の大生命に帰一してゆこうという本領を持っている。

(4) 調和による真の文化世界

- ・倫理的・概念的な頭で知るのは「聞見の知」という。これが進んで単なる事理より具体的は把握のことを東洋では「直観」という。
- ・西洋人は、精細な倫理的知識、概念的知識・思惟に長けている。
- ・ナショナルリズムは行き過ぎると世界民族の分裂や闘争になる。

[千葉木鶏クラブ](#) 代表兼事務局 丸島 忠夫

[Email : marushima_t@snow.plala.or.jp](mailto:marushima_t@snow.plala.or.jp) Tel : 0475-25-1211